

【寒川町】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

各授業において1人1台端末の活用が進み、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて授業改善等の取組を進めている。

児童・生徒一人ひとりの学習スタイルや進度に合わせ、理解度に基づいた学習に取り組むことができるよう、個別最適化された教育を推進している。

グループや集団で取り組む教育的課題や課題に対する対話や議論等、協働学習を通じてコミュニケーションスキルやチームワークを育てている。

さらに、ICTの活用を通じて情報リテラシーを身につけ、将来の社会に必要なスキルが身につくことができるよう、情報モラル教育に取り組んでいる。

2. GIGA第1期の総括

GIGA第1期は、令和元年度3月補正から令和2年度7月補正までの2か年に渡り、端末とネットワークを配備した。現在では、1人1台端末を授業や学校行事等で目標を達成するための学びのツールとして、また、自習学習やグループ学習などの場面で効果的に活用している。

高速大容量の通信ネットワークとしては、令和2年度にGIGA系のアクセスポイントとGIGA系のネットワーク回線を町立学校全校に整備した。

一方で、教科や学年により端末の活用状況に差が見られるなど、端末の利活用において様々な課題が出てきている。そのため、教職員に対する多角的なサポートの実施など、これらの課題を適切に対処し、現在の1人1台端末の環境を引き続き維持した上で、本町のGIGAスクール構想のさらなる推進を目指す必要がある。

3. 1人1台端末の利活用方策

教員と生徒の双方が端末を効果的に利用できる環境を整えるために、まずは教員がICT機器の利活用についての知識を得ることやICT機器を活用した授業の研究が大切であり、教員向けのICT研修を充実させることが重要であると考えます。教員自らがICT機器を活用した授業を模索・実践することで、教育現場全体のデジタルリテラシーの向上が図られることから、これからもICT機器を活用した授業研究に取り組んでいく。

また、次の取組により、GIGAスクール構想を推進することで、児童や生徒がいきいきと学び、成長できる学習環境の実現を目指していく。

①児童や生徒が興味関心あるテーマを深く掘り下げ、自ら課題を見つけ、解決策を探求する教育活動に取り組む。

- ②プレゼンテーションツールを活用し、児童や生徒が主体的に授業に参加できる、双方向型の授業を行う。
- ③デジタルシチズンシップ教育の推進やセキュリティ対策を講じることで、児童や生徒が安全に学び、成長できる学習環境の実現を目指していく。